



株式会社 T.tomorrow
岡山県岡山市中区中納言町 6-12



専務取締役
宅地建物取引士
渡辺 浩平



代表取締役
一級建築士 / 宅地建物取引士
藤澤 大

建築・不動産の豊富な経験と知識で 顧客のニーズを叶え、社会問題の解決に寄与する

近年、社会問題となっている空き家。そんな空き家問題対策に、ハウスメーカーでのノウハウや不動産の知識を活かしながら取り組んでいるのが、一級建築士である藤澤社長と、宅地建物取引士である渡辺専務だ。本日はつまみ枝豆氏が同社を訪問。ユニークな事業展開で社会問題解決に貢献するお二人に、お話を伺った。

——『T.tomorrow』さんでは建築・不動産に関する幅広い業務を手掛けておられると伺いました。

(藤) 建築、設計、不動産、保険、資産運用、空き家問題対策などを手掛けています。特に力を入れているのが空き家問題対策で、今は住んでいない建物や土地などの処分を希望されているお客様から不動産を買い取り、新たな建物を建てるなどして販売する仲介業務を行っています。

——空き家は今大きな問題となっていますから、社会的意義の大きなお仕事ですね。業務には建築や不動産のノウハウが不可欠だと思いますが、どのように培われたのですか。

(藤) 私は大学で建築学を学び、卒業後は大手ハウスメーカーに就職しました。



ゲスト つまみ枝豆

「勤務時代は家の販売がメインだったので、起業後はそれ以外の業務も全てできることが楽しいです」と語る藤澤社長と渡辺専務。空き家問題解決の一助として、今後も頑張ってください

入社後8年間は設計に携わり、その後、営業部に移ったんですが、その時の同僚が渡辺専務なんですよ。

(渡) 藤澤社長とは営業成績で一緒に全国一位を取ったことがあります。そして社長は22年間、私は20年間勤めました。

——素晴らしい成績を残されたわけだ。そんなお二人が起業された経緯とは？

(藤) 当時、岡山営業所で責任者を務めた後、広島に赴任したことがきっかけになりました。広島には平地が少なく、40～50年前に山を切り拓いたりして住宅地がつけられたんですが、高齢化から徐々に空き家が増えてきているんです。しかし、その地域は都心に近く、綺麗にしたり、福祉施設などを建てたりすればニーズがあるのでは、と考えました。ですが、勤務先では着手することが難しかったので、独立して2021年1月から当社をスタート。現在は岡山や広島を営業エリアにビジネスを展開しています。

——スタート後、手応えはいかがですか。

(渡) ありがたいことに早速、1件契約が決まりました。前職時代、私共が関わらせていただいたお客様が300～400件ほどあり、「処分をお考えではありませんか？」とご提案させていただくのです。

(藤) まだスタート間もなく、幾つもの物件を抱えるのはリスクがありますから、今は不動産を手放したい方の情報を収集し、ハウスメーカー様へ仲介させていただく形を取ることが多いですね。また、不動産を手放したい方の多くは、サービス付き高齢者向け住宅に入るからなどの理由がある高齢者が多いです。そこで、福祉施設などを斡旋する企業とタッグを組んで、処分から入居まで一貫してサポートできることを強みにサービスを提供していこうとしているところです。

——今後さらにニーズが広がっていきそうですね。今後については、どのようにお考えですか。

(藤) これからもワクワクするような面白いことに取り組んでいきたいですね。そんな思いを込めて、社名を「明日」と「面白い」をかけ合わせた『T.tomorrow』としました。皆さんに少しでも当社の存在を知っていただけるように、ユニークな取り組みもしており、たとえば、月に一度開催される朝市に参加して、販売する食品の包み紙に当社の広告を入れたり、来社された方が少しでも笑顔になればと、親父ギャグですが(笑)、ハッピーターンをプレゼントしたりしています。

具体的な目標としては空き家のストックを増やしたり、買い取った土地にマンションを建てて販売するなどしていければと考えています。

(取材 / 2021年4月)